

## C08b 国立天文台三鷹キャンパス定例天体観望会

福島英雄、渡部潤一、縣秀彦(国立天文台)、内藤誠一郎(東大・天文センター)、佐藤祐介(東京学芸大)、他 観望会スタッフ

国立天文台天文情報公開センター・広報普及室では、三鷹キャンパスに設置されている口径 50cm の社会教育用公開望遠鏡を使用した定例天体観望会を 1996 年度から実施している。毎月 2 回開催されるこの観望会には、2001 年度末まで 6 年間で延べ 8057 名の参加者を迎えている。当初は悪天候時には中止していたが、2000 年度よりミニ講演(天体解説)や展示紹介、質問の受付等に重点を置き年間 24 回欠かさず開催するようになった。以来 2 年間で、全体の半分以上の参加者数を数えている。

観望会は、天文台職員の監督の下、台内外からボランティア的に集まったアルバイトの学生スタッフが中心となって運営するスタイルを続けており、スタッフ側も年々新しい顔ぶれを交えつつ活性化を図っている。こうした概要も紹介する。

現在では、地域にも普及してきた上に各メディアの広報にも紹介される機会が増え、毎回平均の参加者の増加とともに反復利用者(リピーター)も定着しつつある。一方で規模の拡大に伴って、断っているはずの自動車による来台の増加、身体障害者への対応などの周辺問題も生じており、今後の国立天文台の広報普及活動の一環として、観望会に関する台内の施設や環境、参加者への対応などを改めて検討していく必要がある。